

第2回宇宙開発委員会(定例会議)

議事次第

1. 日時 昭和49年2月13日(水)
午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題 フランス国立宇宙開発センター(ONES)
総裁の招へいについて
4. 資料
委2-1 第1回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨
委2-2 フランス国立宇宙開発センター(ONES)
総裁の招へいについて

委 2-1

第1回宇宙開発委員会(定例会議)

議 事 要 旨

1. 日 時 昭和49年1月16日(水)
午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 昭和49年度宇宙関係政府予算案について
4. 資 料
委1-1 第25回宇宙開発委員会(臨時会議)議事要旨
委1-2 昭和49年度宇宙関係政府予算案総括表

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長	森 山 欽 司
“ 委員	山 県 昌 夫
“ “	網 島 毅
“ “	吉 識 雅 夫
“ “	八 藤 東 禧
関係省庁職員等	
科学技術庁研究調整局長	千 葉 博
科学技術庁研究調整局宇宙開発参事官	山 野 正 登
文部省大学学術局審議官	笠 木 三 郎
	(代理:深沢)
運輸省大臣官房参事官	佐 藤 久 衛
	(“ :小林)

気象庁総務部長

岩 田 弘 文
(代理:高谷)

海上保安庁総務部長

高 野 辰
(“ :樋口)

郵政省電波監理局審議官

市 川 澄 夫
(“ :岡井)

建設大臣官房技術参事官

宮 崎 明
(“ :田中)

事務局

- 科学技術庁研究調整局宇宙企画課長 松 元 守
- “ 宇宙国際課長 松 原 伸 一
- “ 宇宙開発課長 今 村 宏 他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨について

第25回宇宙開発委員会(臨時会議)議事要旨が確認された。

(2) 昭和49年度宇宙関係政府予算案について

事務局から標記の件について資料委1-2に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

山県:地上施設に関する宇宙開発事業団と利用機関との業務分担の考え方は、51年度打上げ予定の気象、通信及び放送の3衛星について同じか。

事務局:基本的には同じであるが、詳細な点については目下検討中である。

網島：地球測測システム調査の内容は何か。

事務局：ERTS-I及び今後打上げの予定されているERTS-IIについて、直接受信も含めて、衛星を有効に利用するためのシステム及び技術を検討するための費用である。

網島：地球測測のために、我が国が独自の衛星を打ち上げる必要があるか否かの検討も必要であろう。

事務局：ERTSのみに依存することには問題があるので、今後とも、各国の地球測測に対する取り組み方もふまえて、検討を進めたい。

網島：航技研の液水ロケットエンジンの研究については、海外からの技術導入を考えることも必要であろう。

事務局：現在、フランスからの技術導入の可能性等について検討を進めているところである。

網島：Qロケットに必要なロケットエンジン等の開発は順調に進捗しているのか。

事務局：JCR及びLS-O型ロケットの実験が終了した時点で明確になるが、米国において行つたロケットエンジンの試験結果は、振動等の問題を除いて良好であつた。

山県：第7号以降の科学衛星計画はどうなつているのか。

文部省（深沢）：現在、学術審議会等で検討中である。

森山：昨今のエネルギー事情にかんがみて、今世紀末までに確実に実用化されうる技術について検討を急ぐ必要がある。

原子力の開発については軌道に乗つたと思われるので、今後は宇宙開発にも力を注ぎたい。

衛星通信、衛星放送等については国際的に実用化が進められ

ているので、我が国でも早期に衛星を自力で打ち上げうる能力を開発する必要がある。

なお、計画の推進に当たつては、広く国民の理解を得て進めることとしたい。

網島：そのためには日本の宇宙開発の長期構想を国民に知らせることが必要である。また、宇宙関係予算が大きくなるにつれ、改めて我が国の宇宙開発のあり方が問われると思われ再び宇宙基本法を立法すべきとの指摘がなされることも考えられる。

山県：その場合「公開」「平和」等のことばを用いるに当たつては、原子力基本法制定当時とは事情が変わつていふこともあり、慎重にその内容を検討する必要がある。

委 2-2

フランスの国立宇宙開発センター (CNES)
総裁の招へいについて (案)

昭和49年2月13日
宇宙開発委員会
決 定

フランスとの相互理解を深め、今後の協力に資するため、下記により CNES 総裁を招へいし、宇宙の開発および利用について当委員会ほかわが国宇宙関係者と意見を交換する。

記

1. 招へい者

Dr. Maurice M. Levy CNES 総裁

(産業政策・企画担当副本部長 Andre Lebeau 等
が随行する)

2. 招へい期間

3月9日(土)から3月17日(日)まで 9日間

参 考

(1) 日程

- 3月 9日(出) 来日
- 10日(日) 自由行動
- 11日(月) 午前 長官表敬訪問
宇宙開発委員会委員と会談
午後 宇宙開発事業団訪問
- 12日(火) 午前 東京大学宇宙航空研究所訪問
午後 講演会(経済団体連合会)
- 13日(水) 午前 科学技術庁航空宇宙技術研究所訪問
午後 石川島播磨重工業株(田無および
瑞穂工場)視察
- 14日(木) 日産自動車株(荻窪および川越工場)視察
- 15日(金) 三菱重工業株(名古屋航空機製作所)視察
- 16日(土) 宇宙開発委員会委員と会談
- 17日(日) 離日

(2) CNES 総裁略歴

1922 生れ

アルジェリア大学およびパリ大学で物理学を学び博士号
を修得

1945—53 国立科学研究センター(CNRS)主任研究員

1953—54 ボルドー大学理学部教授

1954—73 パリ大学理学部教授

1968—71 在米フランス大使館科学技術担当
参事官

1971—73 SEPOR 委員

1974.1.1 CNES 総裁就任